

ご挨拶

医療法人立川メディカルセンター
理事長 吉井 新平

医療法人立川メディカルセンター2024 年度学術活動・業績集をお届けするにあたり、混迷する社会情勢につき、触れさせていただきます。

昨年度も世界情勢の不安定化や国内外の政治体制の変化が身近な地域社会にも大きな影響を及ぼしていることから、現代は「不確実性の時代」と述べました。

2024 年、医療界では医師の働き方改革始動、医療・介護・福祉に関する報酬改定がありました。その中で診療報酬改定は現場感覚からは大幅にずれた内容で、特に急性期病院の経営悪化を招き地域医療は不可逆的な状況に追い込まれつつあります。

例えば急性 A 型大動脈解離は一刻も早い病院各種部門の経験豊富なチームによる高難度な緊急手術が必要ですが、当県で手術可能な病院はすべて大幅な赤字、手練れのチーム維持困難もあり得ます。重要な社会基盤である急性期医療が人為的に「不確実性の時代」の重大要素となっています。

現場からは早急の対策と次期診療報酬の大幅な改定は必須で、不可逆的な災害になる前にこの事態に対し責任ある立場の方々の積極的な対応を望みます。

新型コロナ感染症は地域医療や学術活動に大きな影響をもたらしましたが、多くの方々の並々ならぬ努力により新型コロナは「under control」となりました。各界総力を挙げての対応は学術活動+社会活動の成果とも言えます。

新型コロナ対応が一段落しつつある現在、学術活動も新たな時代に入ったと認識しております。当法人は高度救急救命、回復期、リハビリ、透析医療、認知症等心の病、医療人育成など多岐にわたる地域医療の最前線を担っており、最前線ならではの課題抽出や課題解決へ向けての学術活動も大切な使命と心得ております。

特に日々現場で課題に直面している若い世代には若い世代ならではのアプローチによる活躍を心より期待いたします。

戦後 80 年、あらためて世界的な激動の予感がします。本邦でも大きな自然災害が続いています。新規感染症への備えや新たな災害に対しての強靱化が求められております。

学術活動の方法論としての「現状分析、問題点抽出、将来予測、解決への提案」などはその分野にも通じる場所があります。法人としても冷静な現状分析と将来予測を立てつつ、起こりうる大災害をも想定し、可能な限り日々備えていきます。

当法人は 2025 年「社会医療法人」へ移行し、より一層の社会的使命を果たしていく所存です。今後とも関係各位のご理解とご支援のほどを切にお願い申し上げます。

2025 年 9 月 30 日